

投稿論文書式例

表題：MS 明朝 強調
12point
中央揃え

当院におけるヘマトイジン結晶の検出状況
～結晶形態と髄液中マクロファージ～

氏名：MS 明朝 強調
11point
中央揃え
所属の1)は上付き

表題
氏名・所属
Key word
1行ずつ空ける

鈴木清江¹⁾ 大塚啓光¹⁾ 秋山英治¹⁾ 池田眞由美¹⁾ 及川信彦²⁾

- 1) 獨協医科大学病院 臨床検査センター
- 2) 獨協医科大学 感染制御・臨床検査センター

所属：MS 明朝 強調
11point
中央揃え
所属が複数の場合 1)2)を使用
1行に1部署

Key words：ヘマトイジン結晶，閉塞腔での出現

【はじめに】

赤血球由来の生体内色素であるヘマトイジンは、赤血球分解の過程でヘモグロビンからヘモジデリンを経て生成され、

【結

Key word：MS 明朝 強調
11point 中央揃え
単体：word 複数：words

くも膜下出血、脳室内出血、小脳血管芽腫、約200個、および小脳血管芽腫(1例)では全視野に360個と、脳室内出血と小脳血管芽腫で出現数が多い結果となった(図5)。

本文について

- ・MS 明朝 11point
- ・ページを左右2分割，約20字，左側から
- ・【はじめに】，【方法】など【】でくくる
- ・句読点：全角の『，；カンマ』『.；ピリオド』
- ・行間：1.15間隔

計21件を用いた。腹水は外傷性小腸穿孔，膿瘍穿刺液は肝膿瘍が各1例であった(表1)。

表1 各検体の基礎疾患

材料	疾患名(症例数)
尿	交通事故による腎損傷(2) 腎癌・膀胱癌(2) 膀胱癌・前立腺癌の手術(2) 生体肝移植(1) 硬化性胆管炎(1)
髄液	くも膜下出血(7) 脳室内出血(1) 重症頭部外傷(1) 小脳血管芽腫(1) 超低出生体重児(1)
腹水	外傷性小腸穿孔(1)
膿瘍穿刺液	肝膿瘍(1)

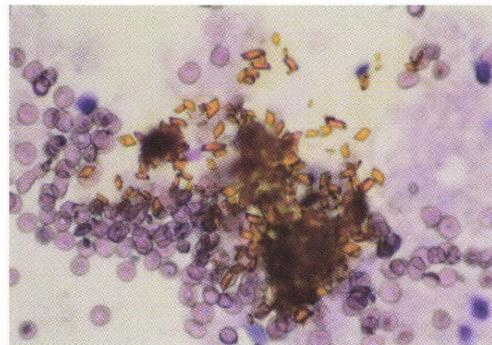


図5 脳室内出血例 ×200
集塊で出現したヘマトイジン結晶

【参考文献】

- 1) 金子伸行：グメリン法. 検査と技術. 29(7):857-860, 2001.
- 2) 弓狩加恵 他：一般検査検体でみられたヘマトイジン結晶とその意義. 検

参考文献の表記方法

著者名：書名，巻数，初頁-終頁，出版社，発行年。

コロン カンマ ハイフン カンマ ピリオド

表・図・写真について

- ・本文中の記述順序に従ってそれぞれの番号を記載
- ・本文中の説明箇所に隣接した位置に記載
- ・表のタイトルは表の上部
- ・図・写真のタイトルは図・写真の下部
- ・説明は8~9pointを使用